Captive or Captivated? Living in the fullness of Christ

捕らわれの身?それとも捕らえられている? キリストの豊かさの中で生きる

Intro

- Our theme for this year as a church is being rooted and built up in Christ. Colossians 2:6-7 says, "⁶ So then, just as you received Christ Jesus as Lord, continue to live your lives in him, ⁷ rooted and built up in him, strengthened in the faith as you were taught, and overflowing with thankfulness."
- 教会としての今年のテーマは、キリストに根ざし、キリストにあって建て上げられることです。 コロサイ人への手紙 2 章 6-7 節には、こう書かれています。「6 このように、あなたがたは主キリスト・イエスを受け入れたのですから、キリストにあって歩みなさい。7 キリストのうちに根ざし、建てられ、教えられたとおり信仰を堅くし、あふれるばかりに感謝しなさい。」
 - Pastor Joseph spoke on this theme on the first Sunday of the new year, reminding us that we have begun a new relationship with God through Christ and encouraging us to continue to grow in that relationship with him. We are growing deeper in our faith and a relationship with Christ and building up our lives in Him, growing in love, godly character and maturity.
- ジョセフ牧師は新年最初の日曜日にこのテーマについて話して下さいました。私たちは、キリストを通して神との新しい関係を始めたのだということを覚え、神との関係の中で成長し続けるように励ましを受けました。私たちは信仰を深め、キリストとの関係を深め、キリストにあって人生を築き上げ、愛と神の品性と成熟において成長していくのです。
 - The imagery paints our lives as a flourishing plant. Put in the right soil, with adequate water, sunlight and room to grow, we flourish. Or of a building that is constructed on a firm foundation. With a solid base, the building can expand, and the structure can endure for many years.
- そのイメージは、私たちの人生を繁茂する植物のように描いています。適切な土壌に置かれ、十分な水と日光が与えられ、成長する余地があれば、私たちは花開きます。あるいは、堅固な土台の上に建てられた建物とも描写できるでしょう。しっかりとした土台があれば、建物は拡大し、その構造は何年も耐えることができるのです。
 - But as the gardeners or homeowners in our congregation know, there are many things that can threaten the health of a plant or the stability of a structure.
- しかし、ここに集っておられる園芸を嗜む方や住宅所有者ならご存知のように、植物の健康や建物の安定を脅かす可能性のあるものはたくさんあるのです。

- Weevils are a part of the big beetle family. They are tiny, practically invisible to the naked eye.
 Weevils dig hollow cells or cavities underneath the tree's bark. They target the bases or roots of woody trees and shrubs. This blocks the flow of water and nutrients to the foliage, leading to stunted growth, wilting and eventually death.
- ゾウムシは甲虫の仲間です。小さくて、肉眼ではほとんど見えません。しかしゾウムシは樹皮の下に空洞を掘ります。しかも木の根元や根を狙うのです。このため、葉への水や栄養分の流れが妨げられ、成長が阻害され、しおれ、最終的には枯れてしまいます。
 - Termites are another common foe. Structuredfoundation.com says the following about termites, "Even the tiniest cracks in a foundation serve as sufficient means for a termite colony to target a home. An access point thinner than a business card provides plenty of room for new infestation. These tiny insects are great at carrying on unnoticed by humans for long periods of time. In a few short years, a small swarm can expand to a colony of 60,000 or more termites. A full-sized colony is able to devour a foot of wooden 2×4's every six months. Foundation weakness can eventually progress to collapsed floors if hungry termites are left unchecked." What a nightmare!
- シロアリもまた一般的な敵です。Structuredfoundation.com(=建物の土台の施工会社)はシロアリについて次のように述べています。「土台のほんのわずかなひび割れでさえ、シロアリのコロニーが家を狙うには十分な手段となります。名刺よりも薄い侵入口は、新たな侵入のための十分なスペースを提供します。この小さな昆虫は、人間に気づかれることなく長い間生き続けることが得意です。数年という短い期間で、小さな群れが6万匹以上のシロアリのコロニーに拡大することもあります。フルサイズのコロニーは、6ヶ月ごとに2×4材1フィート(約30cm)を食い尽くすことができます。飢えたシロアリを放置しておくと、基礎が弱くなり、最終的には床が崩壊することもあります」。なんという悪夢でしょうか!
 - Jesus said in John 10:10 that he came to give us life, abundant life, life to the full.
- イエス様はヨハネの福音書 10 章 10 節で、私たちにいのちを得させるため、それも豊かに得させるために来られたとおっしゃいました。
 - When we put our trust in Jesus as our Savior and Lord he restores our relationship with God and gives us this abundant, eternal life. We can grow like a plant in the healthy, nurturing soil of his love, grace and truth. We can build our lives on his eternal, unshakeable Word.
- 私たちが救い主であり主であるイエス様に信頼を置くとき、イエス様は私たちと神様との関係を回復させ、この豊かな永遠のいのちを与えて下さるのです。私たちは、イエス様の愛と恵みと真理という健全な土壌の中で植物のように成長することができます。私たちは、イエス様の永遠で揺るぎない御言葉という土台の上に人生を築くことができるのです。
 - But there is a real threat in our lives that we miss out on the fullness of life that Jesus promised, that we have our roots or foundation spoiled, our growth stunted, our lives made fruitless by insidious pests: the misplaced hopes and lies of a fallen world, cheap gospel imitations, false teaching and

false Christs that can seep into our hearts and minds. They are threats that often start small but do great damage. They can be tough to identify, but we ignore them at great risk.

- しかし、私たちの人生には、イエス様が約束された豊かないのちを逃してしまうという現実的な 脅威があります。堕落した世界の誤った希望や嘘、安っぽい福音の模造品、偽りの教え、偽キリ ストなどが、私たちの心にしみ込んでくる恐れがあるのです。これらの害虫は、最初は小さくて も大きなダメージを与えることが多くあります。それを見極めるのは難しいことですが、私たち は大きな危険を冒してそれらの脅威を無視しています。
 - Paul uses a different analogy to describe this risk in our passage today. Continuing on from our theme verse in Colossians 2:8 he says, "8 See to it that no one takes you captive through hollow and deceptive philosophy, which depends on human tradition and the elemental spiritual forces of this world rather than on Christ."
- パウロは今日の箇所で、この危険を別の例えを用いて説明しています。コロサイ人への手紙2章8節から続けて、パウロはこのように述べています。「8あの空しいだましごとの哲学によって、だれかの捕らわれの身にならないように、注意しなさい。それは人間の言い伝えによるもの、この世のもろもろの霊によるものであり、キリストによるものではありません。」
 - See to it that no one takes you captive...foreboding language to say the least.
- 「だれかの捕らわれの身にならないように、注意しなさい。」これは控えめに言っても、不穏な表現です。
 - In our text today, we see that the key to avoid being taken captive, the key to protecting the roots and foundation of our faith in Christ by false, empty promises and experiencing the full, abundant life that Christ offers comes by being captivated by the fullness of Christ and setting our hearts fully on him.
- 今日の聖書箇所では、捕らわれの身とならないための鍵、すなわち、キリストへの信仰の根と土台を偽りの空しい約束から守り、キリストが与えてくださる完全で豊かないのちを経験するための鍵は、キリストの満ち満ちた心に捕らわれ、キリストに心を完全に置くことによってもたらされることがわかります。

Let's read our passage for today, Colossians 2:8-15. (Read together)

今日の聖書箇所、コロサイ人への手紙2章8-15節を一緒に読みましょう。

コロサイ人への手紙 2 章 8-15 節

8 あの空しいだましごとの哲学によって、だれかの捕らわれの身にならないように、注意しなさい。それは人間の言い伝えによるもの、この世のもろもろの霊によるものであり、キリストによるものではありません。9 キリストのうちにこそ、神の満ち満ちたご性質が形をとって宿っています。10 あなたがたは、キリストにあって満たされているのです。キリストはすべての支配と権

威のかしらです。11 キリストにあって、あなたがたは人の手によらない割礼を受けました。肉のからだを脱ぎ捨てて、キリストの割礼を受けたのです。12 バプテスマにおいて、あなたがたはキリストとともに葬られ、また、キリストとともによみがえらされたのです。キリストを死者の中からよみがえらせた神の力を信じたからです。13 背きのうちにあり、また肉の割礼がなく、死んだ者であったあなたがたを、神はキリストとともに生かしてくださいました。私たちのすべての背きを赦し、14 私たちに不利な、様々な規定で私たちを責め立てている債務証書を無効にし、それを十字架に釘付けにして取り除いてくださいました。15 そして、様々な支配と権威の武装を解除し、それらをキリストの凱旋の行列に捕虜として加えて、さらしものにされました。

As we begin to think about how to prevent ourselves from being taken captive by hollow and deceptive philosophy and grow in the full, abundant life that Jesus promises, Paul brings us back to the true gospel, which starts and ends with Jesus: who he is and what he has done.

私たちが、空しいだましごとの哲学の捕らわれの身になるのを防ぎ、イエス様が約束しておられる完全で豊かないのちの中で成長するためにはどうしたらよいかを考え始めるとき、パウロは私たちを真の福音に立ち返らせます。その福音とはイエス様に始まり、イエス様に終わるもの、イエス様ご自身であり、イエス様がなされたことです。

I. Christ is the fullness of God

I.キリストは神の完全体である

- A. Verse 9 says that, "in Christ all the fullness of the Deity lives in bodily form..." The fullness of the Deity, the one and only God, and all that he is is embodied in Jesus Christ.
- A. 9節によれば、「キリストのうちにこそ、神の満ち満ちたご性質が形をとって宿っています。」唯一神である神性の全存在とそのすべてが、イエス・キリストの中に具現化されているのです。
 - B. Paul said something similar earlier in Colossians 1:15-17: "¹⁵ The Son is the image of the invisible God, the firstborn over all creation. ¹⁶ For in him all things were created: things in heaven and on earth, visible and invisible, whether thrones or powers or rulers or authorities; all things have been created through him and for him. ¹⁷ He is before all things, and in him all things hold together."
- B. パウロは、コロサイ人への手紙 1 章 15-17 節で同じようなことを先述しています: 「15 御子は、見えない神のかたちであり、すべての造られたものより先に生まれた方です。16 なぜなら、天と地にあるすべてのものは、見えるものも見えないものも、王座であれ主権であれ、支配であれ権威であれ、御子にあって造られたからです。万物は御子によって造られ、御子のために造られました。17 御子は万物に先立って存在し、万物は御子にあって成り立っています。」

- 1. He is the image of the invisible God, the firstborn, the one of highest priority and rank *over* all creation, which he stands apart from as the one who made all things and for whom they are made.
- 1. キリストは目に見えない神の像であり、長子であり、すべての被造物に対して最も高い優 先順位と順位を持つお方です。すなわち、万物をつくられたお方として、また万物がつくられた 理由として、被造物とは完全に区別されるお方です。
 - 2. He is the creator, sustainer and end of all things and completely represents all that God is.
- 2. キリストは万物の創造者であり、維持者であり、終わりであり、神のすべてを完全に表しています。
 - C. The great Christian theologian Origen, from the 3rd century described it this way. He told of a village with a huge statue—so immense you couldn't see exactly what it was supposed to represent. Finally, someone miniaturized the statue so one could see the person it honored. Origen said, "That is what God did in his Son." In this sense, Paul tells us that Christ is the self-miniaturization of God, God becoming one of us and making himself known to us in the most relatable, understandable way possible. The visible image of the invisible God.
- C. 3世紀の偉大なキリスト教神学者オリゲンは、このように描写しています。「ある村に巨大な像があり、それが何を表しているのかよく見えなかった。一最終的に、誰かがその像を小型化し、その像が称えている人物を見ることができるようにした。」オリゲンは、「これが神が御子においてなさったことである」と言っています。この意味で、キリストは神の小型化であり、神が私たちの一人となって、最も親近感がわき、理解しやすい方法で私たちにご自分を知らしめて下さったのだとパウロは語っているのです。目に見えない神の目に見える姿だというわけです。
 - D. Paul continues in verse 18: "¹⁸ And he is the head of the body, the church; he is the beginning and the firstborn from among the dead, so that in everything he might have the supremacy. ¹⁹ For God was pleased to have all his fullness dwell in him, ²⁰ and through him to reconcile to himself all things, whether things on earth or things in heaven, by making peace through his blood, shed on the cross."
- D. パウロは 18 節からこのように続けています。「18 また、御子はそのからだである教 会のかしらです。御子は初めであり、死者の中から最初に生まれた方です。こうして、すべてのことにおいて第一の者となられました。19 なぜなら神は、ご自分の満ち満ちたものをすべて御子のうちに宿らせ、20 その十字架の血によって平和をもたらし、御子によって、御子のために万物を和解させること、すなわち、地にあるものも天にあるものも、御子によって和解させることを良しとしてくださったからです。」
 - 1. Not only is Jesus the creator and head over all creation, but he is also the head of the church, his body, those who believe in him for salvation.

- 1. イエスは創造主であり、すべての被造物の頭であるだけでなく、その体である教会、すなわち救いのためにイエスを信じる者たちの頭でもあります。
 - 2. It is through Jesus' sacrifice on the cross that we can be reconciled to God. He is the one and only Savior.
- 2. イエスの十字架上の犠牲によって、私たちは神と和解することができます。イエスは唯一 無二の救い主です。
 - E. Coming back to 2:10 we see Paul repeat that theme saying, "He is the head over every power and authority." (10)
- E. 2章 10節に戻ると、パウロはこのテーマを繰り返してこのように述べています。「キリストはすべての支配と権威の頭です。」
 - 1. There is no greater name, no greater authority. There is no one and nothing equal or comparable to Christ. He has supremacy in ALL things.
- 1. これ以上の名、これ以上の権威はありません。キリストに匹敵するものは何一つないのです。キリストは**すべてにおいて**最上位におられる方です。
 - 2. It is this Jesus Christ who is the fullness of God. The one who came into our world, took on flesh and lived as one of us to rescue us from sin and death.
- 2. このイエス・キリストこそ、神の全きお方です。私たちを罪と死から救うために、私たちの世界に来られ、肉体を持ち、私たちの一人として生きてくださったお方です。
 - F. Jesus Christ is more than a good teacher. He's much more than a powerful prophet. He is God in the flesh, the utterly unique, eternal Son of God. Christ is the fullness of God.
- F. イエス・キリストは良い教師以上の存在です。力強い預言者以上の存在です。肉体を持った神であり、まったく唯一無二の永遠の神の御子であられます。キリストは神の完全体なのです。

Transition: And it is this Christ, who has saved us and given us the fullness that our hearts long for. "⁹ For in Christ all the fullness of the Deity lives in bodily form, ¹⁰ and in Christ you have been brought to fullness."

そして、このキリストこそが、私たちを救い、私たちの心が待ち望む豊かさを与えてくださったのです。「9キリストのうちにこそ、神の満ち満ちたご性質が形をとって宿っています。10あなたがたは、キリストにあって満たされているのです。キリストはすべての支配と権威のかしらです。」

II. We have been given fullness in Christ

II.私たちはキリストにあって豊かさを与えられている

But in what sense and in what way have we been brought to fullness? Is this just about having our needs met or getting what we want? Or becoming the best person we can be? Or living the best life that we can? The heart of what Paul is saying here is seen most clearly in the stark contrast he draws between who we were *before* believing in Christ and *after* believing in Him.

しかし、どのような意味で、どのような方法で私たちは豊かさが与えられているのでしょうか。これは単に私たちの必要が満たされることや、欲しいものが手に入るということでしょうか。それとも、私たちがなれる最高の人間になるということでしょうか。あるいは、私たちが送ることのできる最高の人生を送ることでしょうか。ここでパウロが言っていることの核心は、キリストを信じる前と、信じた後の私たちの間の鮮明な対比に最も明確に表れています。

A. Let's look at the **before** first.

- A. まずは、信じる前を見てみましょう。
 - 1. Earlier in chapter 1, Paul wrote that, "1:21 Once you were alienated from God and were enemies in your minds because of your evil behavior." We were separated from God. We were his enemies. On what grounds? The text tells us that it was because of our evil behavior.
- 1. パウロは1章の前半で、「あなたがたも、かつては神から離れ、敵意を抱き、悪い行いの中にありました(1章 21節)」と書いています。私たちは神から離れていました。私たちは神の敵だったのです。どのような理由で?本文によれば、それは私たちの悪い行いのためでした。
 - 2. Throughout the Bible we are told that humanity's fundamental problem, the one that affects every part of our lives from birth to death is sin. Sin is not just our outward words and behaviors, but the very nature of our being, a sickness within our hearts that causes us to turn from God and seek to live life apart from him.
- 2. 聖書全体を通して、人類の根本的な問題、生まれてから死ぬまでの人生のあらゆる部分に 影響を及ぼす問題は罪であると言われています。罪とは、私たちの外見的な言動だけでなく、私 たちの存在の本質であり、神に背を向け、神から離れて生きようとする心の病なのです。
 - 3. Romans 3:23 says, "²³ for all have sinned and fall short of the glory of God." Later in Romans 6:23 we read, "²³ For the wages of sin is death." This is the reality of sin, our rebellion against God has separated us from him and leads to spiritual death (Romans 3:23, 6:23a).
- 3. ローマ人への手紙 3 章 23 節には、「すべての人は罪を犯して、神の栄光を受けることができず」とあります。後のローマ人への手紙 6 章 23 節には、「罪の報酬は死です」とあります。これが罪の現実であり、神への反逆が私たちを神から引き離し、霊的な死に導いているのです。(ローマ人への手紙 3:23、6:23a)

- 4. Ephesians 2:1-3 sums it up well: "As for you, you were dead in your transgressions and sins, ² in which you used to live when you followed the ways of this world and of the ruler of the kingdom of the air, the spirit who is now at work in those who are disobedient. ³ All of us also lived among them at one time, gratifying the cravings of our flesh and following its desires and thoughts. Like the rest, we were by nature deserving of wrath."
- 4. エペソ人への手紙 2 章 1-3 節は、そのことをよく要約しています: 「1 さて、あなたがたは自分の背きと罪の中に死んでいた者であり、2 かつては、それらの罪の中にあってこの世の流れに従い、空中の権威を持つ支配者、すなわち、不従順の子らの中に今も働いている霊に従って歩んでいました。3 私たちもみな、不従順の子らの中にあって、かつては自分の肉の欲のままに生き、肉と心の望むことを行い、ほかの人たちと同じように、生まれながら御怒りを受けるべき子らでした。」
 - 5. Before believing in Christ, we were objects of God's wrath, headed for eternal destruction.
- 5. キリストを信じる前の私たちは、神の怒りの対象であり、永遠の滅びに向かっていました。
 - B. But what happens after you believe in Jesus?
- B. しかし、イエスを信じた**後**はどうなるのでしょうか。
 - Believing in Jesus and having a relationship with him changes everything. Paul says in Col. 1:22, "1:22 But now he has reconciled you by Christ's physical body through death to present you holy in his sight, without blemish and free from accusation—"
- 1. イエスを信じ、イエスとの関係を持つことは、すべてを変えます。パウロはコロサイ人へ 手紙 1 章 22 節でこう言っています。「今は、神が御子の肉のからだにおいて、その死によって、 あなたがたをご自分と和解させてくださいました。あなたがたを聖なる者、傷のない者、責めら れるところのない者として御前に立たせるためです。」
 - 2. Paul says that through Christ's sacrificial death, we are no longer enemies of God and alienated from him, but we have been reconciled. Our relationship with God has been restored. Our sins have been forgiven. We are now holy, cleansed and free from accusation.
- 2. パウロは、キリストの犠牲の死によって、私たちはもはや神の敵ではなく、神から疎外されているのでもなく、和解したのだと言っています。神との関係は回復されたのです。私たちの罪は赦されました。私たちは今、聖なる者となり、きよめられ、(罪に対する神の)告発から解放されたのです。

- 3. Our salvation is complete. We have received the full rights of being children of God. We have been brought to fullness in Christ.
- 3. 私たちの救いは完全です。私たちは神の子としての完全な権利を受け取りました。私たちは、キリストにあって完全な者とされたのです。
 - 4. Paul compares this fullness of life, this eternal life to a gift that God has given us in Christ (Rom. 6:23): "²³ For the wages of sin is death, but the gift of God is eternal life in Christ Jesus our Lord."
- 4. パウロは、この満ち足りたいのち、永遠のいのちを、神がキリストにおいて私たちに与えてくださった賜物に例えています:「罪の報酬は死です。しかし神の賜物は、私たちの主キリスト・イエスにある永遠のいのちです。」(ローマ人への手紙 6 章 23 節)
 - C. How did God make this possible? We have hinted at it so far, but Paul goes into striking detail to help us understand what Christ did on our behalf to make us right with God and give us the fullness of a new relationship with God and the fullness of his eternal life.
- C. 神はどのようにしてこのことを可能にされたのでしょうか。これまで、私たちはそのことについて垣間見てきましたが、パウロは、驚くほど詳細に説明しています。神との関係を正しくし、その新しい関係によって私たちが真の豊かさと永遠のいのちを得られるために、キリストが私たちに代わって成し遂げて下さったことを理解できるようになるためです。
 - 1. In 2:13-14 he says, "¹³ When you were dead in your sins and in the uncircumcision of your flesh, God made you alive with Christ. He forgave us all our sins, ¹⁴ having canceled the charge of our legal indebtedness, which stood against us and condemned us; he has taken it away, nailing it to the cross."
- 1. 2章 13-14節で、パウロは述べています。「13 背きのうちにあり、また肉の割礼がなく、死んだ者であったあなたがたを、神はキリストとともに生かしてくださいました。私たちのすべての背きを赦し、14 私たちに不利な、様々な規定で私たちを責め立てている債務証書を無効にし、それを十字架に釘付けにして取り除いてくださいました。」
 - a. Here he compares the record of our sin and our guilt before God, our gross inability to obey his holy law, as a legal charge against us, one that rightly sentenced us to eternal death and condemnation.
- a. ここでパウロは、私たちの罪の記録と、神の前にある私たちの罪、神の聖なる律法に従う ことのできない私たちの重大な無能さを、法的な罪、すなわち永遠の死と断罪を宣告するものと して比較しています。
 - b. (illustration) I want you to imagine that this piece of paper is a record of my life. It contains all that has happened in my life thus far, every thought, action,

intention, etc. It is a record of every sin I've committed, like lying or lust or pride and selfishness, as well as many more that I wouldn't want you to know about, but that God does. It is this full record of my life and all that I have done that stands against me and condemns me. I have fallen short of God's perfect holiness. But it is these very sins that Jesus took on himself and nailed to the cross, dying in my place and cancelling my debt, never to be remembered again.

- b. この紙切れが私の人生の記録だと想像してみて下さい。これまでの人生で起こったこと、すべての考え、行動、意志などが書かれています。嘘や欲望、プライドや利己主義など、私が犯したあらゆる罪の記録であり、あなたには知られたくないけれど、神には知られている多くの罪の記録でもあります。私の人生と私がしてきたことのこの完全な記録が、私に立ちはだかり、私を責めるのです。私は神の完全な聖さには決して達することができません。しかし、イエスが私の代わりに死に、私の負債を帳消しにして、二度と思い出されることのないようにして下さった。ここに記録されているすべての罪を贖って下さったのです。
 - c. Jesus himself took this record, allowing himself to be nailed to the cross to pay the penalty for our transgressions. He did this for me. He did this for you.
- c. イエス自身がこの記録を受け継ぎ、私たちの罪の罰を受けるために十字架に釘付けにされました。イエスは私のためにそれをして下さいました。あなたのためにして下さいました。
 - 2. This was the ultimate exchange. His life for ours. The sinless One for the sins of all humanity. The righteous for the unrighteous. This was an unimaginable exchange and sacrifice that made our salvation complete.
- 2. これは究極の交換です。彼のいのちと私たちのいのち。罪なき方と全人類の罪。正しくない者と正しい者。これは想像を絶する交換であり、私たちの救いを完全なものとする犠牲でした。

Transition: We have been given fullness in Christ through his precious blood. This is our great boast and hope as Christians, that we are forgiven and free, lacking in nothing because of what Christ has done for us. But in reminding the Colossians of these awesome truths, Paul also has a warning: beware. He says, "Beware!" because of the many...

私たちは、キリストの尊い血潮によって、キリストにあって豊かさが与えられています。キリストが私たちのためにして下さったことのゆえに、私たちは赦され、自由であり、何一つ欠けていないのです。しかし、パウロは、コロサイにいる信徒たちにこれらの素晴らしい真理を思い起こさせるため、警告も発しています。「用心しなさい!」とパウロは言います。

III. False promises of fullness

III.豊かさについての誤った約束

- A. All that we need for life and salvation is found in Christ, and he offers it to us free of charge, by grace. All we have to do is confess our sins and trust in his death and resurrection.
- A. いのちと救いに必要なものはすべてキリストのうちにあり、キリストはそれを恵みによって無償で与えて下さいます。私たちがすべきことは、罪を告白し、キリストの死と復活を信じることだけです。
 - B. But there are other voices which say otherwise. Let's reread 2:8. "8 See to it that no one takes you captive through hollow and deceptive philosophy, which depends on human tradition and the elemental spiritual forces of this world rather than on Christ."
- B. しかし、そうではないとする声もあります。2章8節を読み直してみましょう。「あの空しいだましごとの哲学によって、だれかの捕らわれの身にならないように、注意しなさい。それは人間の言い伝えによるもの、この世のもろもろの霊によるものであり、キリストによるものではありません。」
 - C. Paul says that there are hollow and deceptive philosophies that stand opposed to the gospel of Jesus Christ. These ideas, these philosophies, these worldviews can take us captive and prevent us from continuing to live and grow in the fullness of all Christ is and all that he died to provide for us.
- C. パウロは、イエス・キリストの福音に対立する、空しいだましごとの哲学があると言います。このような考え、哲学、世界観は、私たちを捕らえ、キリストがその死によって私たちに備えて下さったすべてのもの、キリストの完全さの中で生き、成長し続けることを妨げます。
 - D. There is a sharp contrast made between the fullness of Christ and his gospel and hollow, deceptive philosophy. They are hollow and deceptive in that they promise something they can't provide; they are empty and vain.
- D. キリストとその福音の豊かさと、空しいだましごとの哲学との間には、鋭い対比があります。それらは実際には与えることのできないものを約束している点で、空しいだましごとです。
 - E. Are you familiar with "empty calories"? Empty calories are calories derived from food containing no nutrients. Since they don't have any nutritional value for your body, they can end up leaving you hungrier and less satisfied when you eat foods that contain them. They look good on the outside and often taste good going down, but they don't truly satisfy our hunger and true needs.
- E. 「エンプティカロリー」をご存知ですか?エンプティカロリーとは、栄養素を含まない食品から得られるカロリーのことです。エンプティカロリーには栄養価がないため、エンプティカロリーを含む食品を食べると、空腹感が増し、満足感が得られなくなります。エンプティカロリーは見た目もよく、味もおいしいのですが、私たちの空腹感や真の欲求を満たしてはくれません。
 - F. The hollow, deceptive philosophy Paul is talking about is empty calories. They are a lie, a scam. They might look good on the outside and be appealing at first, but they don't have any lasting value and don't satisfy the true needs of hearts and our ultimate need for salvation.

- F. パウロが言っている空しいだましごとの哲学とは、エンプティ・カロリーです。それは嘘であり、詐欺です。外見はよく見え、最初は魅力的かもしれないけれど、永続的な価値はなく、心の真の必要や救いへの究極的な必要を満たすものではありません。
 - G. Paul says they are based in two things: human tradition and the elemental spiritual forces of this world. Let's look at those briefly.

G.パウロは、それらは人間の伝統とこの世の霊的な力の二つに基づいていると言います。それら を簡単に見てみましょう。

- Tradition in and of itself is not evil. We have many traditions from our various cultures
 that are rich and celebrated. As Christians we have certain traditions that we enjoy each
 year at Easter or Christmas. But the kind of tradition Paul is talking about here is human
 tradition that attempts to attach some other requirement to our salvation beyond
 believing in Christ.
- 1. 伝統それ自体は悪ではありません。私たちは様々な文化から豊かで祝いにふさわしい多くの伝統を持っています。クリスチャンとして、私たちは毎年イースターやクリスマスを楽しむ特定の伝統を持っています。しかし、パウロがここで言っている伝統とは、キリストを信じること以外にも救いの条件を加えようとする人間の伝統のことです。
 - a. For the Colossian believers, this was the influence of certain Jewish sects who tried to convince the believers that just believing in Jesus wasn't enough. We get a sense of what they were trying to convince the Colossians of in 2:16-23:
- a. コロサイの信徒たちにとって、これはイエスを信じるだけでは十分でないと説得しようとしたあるユダヤ人宗派の影響でした。2章16-23節で、彼らがコロサイの信徒たちに何を説得しようとしていたかを知ることができます:

¹⁶ Therefore do not let anyone judge you by what you eat or drink, or with regard to a religious festival, a New Moon celebration or a Sabbath day. ¹⁷ These are a shadow of the things that were to come; the reality, however, is found in Christ. ¹⁸ Do not let anyone who delights in false humility and the worship of angels disqualify you. Such a person also goes into great detail about what they have seen; they are puffed up with idle notions by their unspiritual mind. ¹⁹ They have lost connection with the head, from whom the whole body, supported and held together by its ligaments and sinews, grows as God causes it to grow. ²⁰ Since you died with Christ to the elemental spiritual forces of this world, why, as though you still belonged to the world, do you submit to its rules: ²¹ "Do not handle! Do not taste! Do not touch!"? ²² These rules, which have to do with things that are all destined to perish with use, are based on merely human commands and teachings. ²³ Such regulations indeed have an appearance of wisdom, with their self-imposed worship, their false humility and their harsh treatment of the body, but they lack any value in restraining sensual indulgence.

16 こういうわけですから、食べ物と飲み物について、あるいは祭りや新月や安息日のことで、だれかがあなたがたを批判することがあってはなりません。17 これらは、来たるべきものの影であって、本体はキリストにあります。18 自己卑下や御使い礼拝を喜んでいる者が、あなたがたを断罪することがあってはなりません。彼らは自分が見た幻に拠り頼み、肉の思いによっていたずら

に思い上がって、19 かしらにしっかり結びつくことをしません。このかしらがもとになって、からだ全体は節々と筋によって支えられ、つなぎ合わされ、神に育てられて成長していくのです。20 もしあなたがたがキリストとともに死んで、この世のもろもろの霊から離れたのなら、どうして、まだこの世に生きているかのように、21「つかむな、味わうな、さわるな」といった定めに縛られるのですか。22 これらはすべて、使ったら消滅するものについての定めで、人間の戒めや教えによるものです。23 これらの定めは、人間の好き勝手な礼拝、自己卑下、肉体の苦行のゆえに知恵のあることのように見えますが、何の価値もなく、肉を満足させるだけです。

- b. They were focused on the observance of certain elements of Jewish tradition. They worshiped angels and were focused on their own image and spirituality. They thought that their observance of certain outward regulations would make them worthy and acceptable in God's sight. At the root of their thinking, they thought they could save themselves by what they did. Paul says they are separated from the head, Jesus Christ, the only one who can truly save.
- b. 彼らはユダヤ教の伝統の特定の要素を守ることに集中していました。彼らは天使を崇拝し、自分たちのイメージと霊性を重視していました。彼らは、ある特定の外面的な規則を守ることが、神の目にふさわしく、受け入れられることになると考えていたのです。彼らの考え方の根底には、自分たちは自らの行いによって救われるのだという考えがありました。パウロは、彼らは頭であるイエス・キリストから切り離されていると述べています。
 - 2. Paul also describes this hollow and deceptive philosophy as having a spiritual component. They don't just have a human origin but also depend on the elemental spiritual forces of this world. These could have been angelic authorities or the so-called gods that people of the day associated with certain places or nations. But behind it all is the work of demonic forces that seek to blind people from seeing who Christ is and their need for him. They are more than mere ideas.
- 2. パウロはまた、この空しいだましごとの哲学には霊的な要素があると述べています。彼らは人間的な起源を持つだけでなく、この世の霊的な力に依存しているのです。それは天使の権威であったり、当時の人々が特定の場所や国と結びつけていたいわゆる神々であったりします。しかし、その背後には、キリストが誰であるか、キリストを必要とする人々の目をくらませようとする悪魔的な力の働きがあります。それらは単なる観念ではなりません。
 - 3. Paul makes clear that the gospel and this philosophy or false teaching are NOT compatible. He clearly states that these beliefs depend on human tradition and other spiritual forces, NOT, on Christ. They are antithetical to the gospel of Christ.
- 3. パウロは、福音とこのような哲学や偽りの教えは両立しないと明言しています。彼は、これらの信仰は人間の伝統や他の霊的な力に依存しているのであって、キリストに依存しているのではないと明言しています。それらはキリストの福音とは相反するものなのです。

Transition: And so we come to the heart of Paul's warning in today's passage. And it centers around this question: Are you...(captive or captivated?)

そして、私たちは今日の箇所のパウロの警告の核心に触れることになります。その中心はこの質問にあります:あなたは…(捕らわれの身?それとも捕らえられている?)

IV. Captive or Captivated?

IV. 捕らわれの身?それとも捕らえられている?

- A. Again, in v. 8 he uses vivid language to convey the danger and peril involved. He says, "8 See to it that no one takes you captive..."
- A. 繰り返しになりますが、8節で、パウロは明確な言葉を用いて危険を伝えています。「だれ かの捕らわれの身にならないように…」
 - 1. It is the image of being captured by enemy forces. Of being taken against one's will and held hostage.
- 1. これは敵軍に捕らえられるイメージです。自分の意思に反して人質に取られることです。
 - 2. Paul doesn't want his brothers and sisters being duped into believing a lie. Not when all they need has already been granted them in Christ.
- 2. パウロは、兄弟姉妹が嘘を信じるように騙されることを望んでいません。彼らに必要なものはすべて、キリストにあってすでに与えられているのです。
 - B. My guess is that we aren't tempted to worship angels or observance certain Jewish traditions to increase our standing with God, but the dangers of hollow, deceitful philosophy are no less real for us today.
- B. 私の推測では、私たちは神との立場を高めるために天使を拝んだり、特定のユダヤ教の伝統を守ったりする誘惑には駆られないでしょう。しかし、空しいだましごとの哲学の危険性は、現代の私たちにとっても同じです。
 - 1. Our world is awash in false promises and ungodly ideologies that can take our hearts captive and influence us in profound ways. How about some of these?
- 1. 私たちの世界には、私たちの心を虜(とりこ)にし、私たちに大きな影響を与えるような、偽りの約束や不敬虔なイデオロギーがあふれています。これらはどうでしょうか。
 - a. "My happiness and worth come from what I have, what I do, and what others think about me." NO! Our worth and value come from being made in God's image. We discover our value when we look at the cross and the price God paid to redeem us.

- a. 「私の幸せと価値は、私が持っているもの、私がしていること、そして他人が私のことを どう思うかで決まるのだ」 NO! 私たちの価値は、神にかたどってつくられたことに由来します。 十字架と、神が私たちを贖うために支払われた代価を見るとき、私たちは自分の価値を発見する ことができます。
 - b. "Follow your heart." NO! Our hearts are warped, corrupt and sinful. We are our own greatest problem. We are called to follow Christ, not our hearts.
- b. 「自分の心に従え」 NO! 私たちの心はゆがみ、腐敗し、罪深いです。私たち自身が最大の問題なのです。私たちは自分の心ではなく、キリストに従うように召されています。
 - c. "As long as you're happy that's what's most important." NO! Certainly, our happiness is important to God, but we don't exist for our own self-pleasure. God made us to know and delight in him. We experience our greatest fulfillment when we seek to honor and please him. He is our joy and satisfaction.
- c. 「あなたが幸せであれば、それが一番大切なこと」 NO! 確かに、私たちの幸せは神にとって重要ですが、私たちは自己満足のために存在しているのではありません。神が私たちをつくられたのは、神を知り、神を喜ぶためなのです。神を敬い、神を喜ばせようとするとき、私たちは最大の充足を経験します。神は私たちの喜びであり、満足なのです。
 - d. "As long as you're a good person you will go to heaven." NO! Who is good? Compared to whom?? There is only One who is good and that is God alone. None of us can stand before him and say that we are good enough, holy enough or worthy enough on our own merits to be in his presence.
- d. 「善人である限り天国に行ける」 NO! 誰が良い人なのですか? 誰と比べて? 良いお方はただ一人、神だけです。私たちの誰も、神の前に立って、自分が神の御前に立つのに十分な良い者、十分な聖い者、十分な価値ある者と言うことはできません。
 - e. "It doesn't matter what you believe, as long as you believe something." NO! As much as we would like to believe, we are not the ones who decide what is true and what it not. All truth claims are not equally valid, and truth is not determined by our personal opinions or feelings on a matter. We can easily believe a lie.
- e. 「何かを信じている限り、何を信じているかは問題ではない」NO!信じたいのは山々ですが、何が真実で何が真実でないかを決めるのは私たちではありません。すべての真実の主張が等しく有効なわけではないし、真実はその問題に対する私たちの個人的な意見や感情によって決まるものでもありません。私たちは簡単に嘘を信じてしまう者なのです。
 - 2. Tragically, we are no more immune to false teaching in the church today than in Paul's time.

- 2. 残念なことに、私たちはパウロの時代と同様、今日の教会でも偽りの教えを免れることはできません。
 - a. While confessing Jesus as our Savior and Lord, are we really trying to earn his favor by doing good things? By our performance? Do we think that if we don't do enough of ______, God won't love us or accept us anymore? Is our service motivated by love or by duty or guilt or the desire for human praise?
- a. イエスを救い主であり、主であると告白しながら、私たちは良いことをしてイエス様の好意を得ようとしていないでしょうか。○○を十分にしないと神様はもう私たちを愛して下さらない、受け入れて下さらないと考えていませんか。私たちの奉仕は、愛によるものでしょうか、それとも義務や罪悪感、人間的な賞賛を求める気持ちによるものでしょうか。
 - b. Do we see God as a giant genie? Does he exist to grant our every wish and give us what we want? Does he exist to serve us, or do we exist to serve Him?
- b. 私たちは神様を大きな魔法使いのように見ていないでしょうか。神は私たちのあらゆる願いを叶え、私たちが望むものを与えるために存在するのでしょうか。神は私たちに仕えるために存在するのでしょうか、それとも私たちが神に仕えるために存在するのでしょうか。
 - c. Do we see our faith as just a set of rules: things we do and thing we don't do? Or as simply personal culture? Christians go to church on Sunday, that's just what we do. NO! It is an intimate, living, vibrant relationship with the God of the universe and the savior of our souls!!!
- c. 私たちは信仰を単なるルール、つまり私たちがすることとしないことのセットのように見ていないでしょうか。あるいは、単なる個人的な文化として?クリスチャンは日曜日に教会に行く。そうではありません!信仰とは、宇宙の神であり、私たちの魂の救い主である神との親密で生き生きとした関係なのです!
 - d. Are our hearts guilty of wandering? Have we forgotten the greatness of what Christ has done for us? The depth of his love for us? Are we looking for satisfaction, fulfillment, purpose, etc. from someone or something else? It's a false hope and a false god.
- d. 私たちの心は迷いの罪を犯していないでしょうか。キリストが私たちのためにして下さったことの偉大さを忘れてはいないでしょうか。私たちに対するキリストの愛の深さを覚えていますか。満足感、充足感、自分の生きる目的などを他の誰かや何かに求めてはいないでしょうか。それは偽りの希望であり、偽りの神です。
 - 3. These are just a sampling. I'm sure there are many more we could come up with. So I ask you this morning, brothers and sisters, friends, is there something that has taken your heart captive?

- 3. これらはほんの一例です。他にもたくさんあると思います。そこで今朝、兄弟姉妹の皆さん、友人の皆さんにお尋ねします。あなたの心を捕らえているものはありますか。
 - 4. If so, what is the remedy? How do we free ourselves from these hollow, deceptive lies?
- 4. もしそうなら、救済策は何でしょうか。どうすれば、この空虚で欺瞞に満ちた嘘から解放されるのでしょうか。
 - C. In these first two chapters of Colossians, Paul teaches a great truth: if we don't want to be taken captive, we need to be captivated by Christ. That's why he has been singing the glories of Christ, reminding the Colossians of who he is. If we want to continue to live in him, rooted and being built up in him, we must continue to look upon him, remembering all that he is and all he has done. He is supreme in majesty, power, glory, love and excellence. Being captivated by Christ is our best defense against being taken captive by something else.
- C. コロサイ人への手紙の最初の2章で、パウロは偉大な真理を教えています。捕らわれの身になりたくなければ、キリストに捕らえられなければなりません。だからこそ、パウロはキリストの栄光を歌い、キリストがどのようなお方であるのかをコロサイの信徒たちに思い起こさせているのです。私たちがキリストのうちに根ざし、建て上げられて生き続けたいのなら、キリストを見つめ続け、キリストがどのようなお方であり、どのようなことをして下さったかを思い起こさなければなりません。キリストは威厳、力、栄光、愛、卓越性において最高のお方です。キリストに捕らわれることは、他のものの捕らわれの身にならないための最善の防御策です。
 - D. Practically, what are some ways we can do this?
- D. 具体的には、どのような方法があるでしょうか。
 - 1. Paul gives us a good starting point in the next chapter (3:1-2), where he says, "Since, then, you have been raised with Christ, set your hearts on things above, where Christ is, seated at the right hand of God. ² Set your minds on things above, not on earthly things. ³ For you died, and your life is now hidden with Christ in God." We are called to make Christ the treasure of our hearts and the meditation of our minds.
- 1. 次の章 (3章 1-2節)で、パウロは私たちに良い出発点を与えています。「1こういうわけで、あなたがたはキリストとともによみがえらされたのなら、上にあるものを求めなさい。そこでは、キリストが神の右の座に着いておられます。2上にあるものを思いなさい。地にあるものを思ってはなりません。」私たちは、キリストを心の宝とし、心の黙想とするよう求められています。
 - 2. We need to take thoughts captive, renouncing untruth and repenting as necessary. Paul says in 2 Cor. 10:5, "we take captive every thought to make it obedient to Christ." Let's observe what's going on in our thoughts and emotions. Where are things coming from? Is it from God, from my sinful flesh or from the world? Instead of being taken captive, let's take those unholy, ungodly thoughts and submit them to God's truth through prayer.

- 2. 私たちは思いを捕らえ、不真実を捨て、必要に応じて悔い改める必要があります。パウロはコリント人への手紙 第二 10 章 5 節で、「私たちは様々な議論と、神の知識に逆らって立つあらゆる高ぶりを打ち倒し、また、すべてのはかりごとを取り押さえて、キリストに服従させます。」と言っています。私たちの思考や感情の中で何が起こっているのかを観察してみましょう。物事はどこから来ているのか。神からなのか、自らの罪深い肉からなのか、それともこの世からなのか。捕らわれの身になるのではなく、祈りによって、聖なるものではない、神のものではない思いを神の真理に従わせましょう。
 - 3. We need to be intentional in what we fill our hearts and minds with. We will never be captivated by someone that we don't spend time with. Our emotions may experience different ups and downs, but we can choose, with God's help, to make time to meet with him, to talk with him and let him talk with us in prayer, and to meditate on his Word.
- 3. 私たちは、心を満たすものを意識的に選ぶ必要があります。一緒に時間を過ごさない人に心を奪われることはありません。私たちの感情の浮き沈みは様々かもしれませんが、私たちは神の助けによって、神との時間を作り、祈りの中で神と語り合い、神の御言葉を黙想することを選ぶことができます。
 - 4. Perhaps an important question to ask ourselves is: Who influences my thoughts, attitudes, affections, decisions, etc. the most? Is it Jesus, or someone else?
- 4. おそらく自分自身に問うべき重要な質問はこれでしょう: 私の考え、態度、愛情、決断などに最も影響を与えているのは誰か?イエス様か、それとも他の誰かか?
 - 5. Other people have incredible influence in shaping what we think and believe. Our relationships can help draw us closer to Christ or they can lead us away from him. Who are we allowing to influence us the most? Are you getting enough time with people who encourage you to set your heart and mind on Christ? Other people that you can do that together with? Many of you are involved in a small group Bible study, prayer time or other fellowship opportunity outside of Sunday worship. Life is extremely busy, with many demands on our time and energy, but what kind of investment might God be encouraging you to make that would not just protect you from being taken captive, but captivate you even more with the greatness of Christ so that you can live in his fullness?
- 5. 私たちが何を考え、何を信じるかを形成する上で、他人は驚くほどの影響力を持っています。人間関係は、私たちをキリストに近づけることもあれば、キリストから遠ざけることもあります。私たちは、誰に最も影響を受けているでしょうか。キリストに心を向けるように励ましてくれる人たちと、十分な時間を過ごしているでしょうか。皆さんの多くは、日曜日の礼拝以外でも、スモールグループの聖書研究会や祈りの時間、その他の交わりの機会を持っています。人生は非常に忙しく、私たちの時間やエネルギーには多くの要求があります。しかし、神があなたにどんな投資をするように勧めておられるでしょうか。それは、単にあなたを捕らわれから守るだけでなく、キリストの偉大さに捕らわれ、キリストの豊かさの中で生きることができるようにするものでしょうか。

Transition: Are you captive or captivated?

捕らわれの身ですか?それともキリストに捕らえられていますか?

Closing

• The son of a minister, Jonathan Edwards grew up in the church hearing the gospel. As a boy, however, he had a great dread of the sovereignty of God. He was horrified by a misguided understanding of God's character and intentions toward mankind. Later he spoke of His conversion as the moment that he came to not only be at peace with God's sovereignty over all things, but to draw immense comfort from it. He wrote,

- 牧師の息子であるジョナサン・エドワーズは、教会の中で福音を聞いて育ちました。しかし、少年時代、彼は神の主権に大きな恐れを抱いていました。彼は、人間に対する神の性格と意図についての誤った理解に慄然としていました。後に彼は、神の主権が万物を支配していることに安らぎを覚えるようになっただけでなく、そこから計り知れない慰めを得るようになったとして、自身の回心について次のように書いています。

"The first instance that I remember of that sort of inward, sweet delight in God and divine things that I have lived much in since, was on reading those words,

"Now unto the King eternal, immortal, invisible, the only wise God, be honor and glory for ever and ever, Amen." (1 Timothy 1:17)

「神と神的なものに対する、内面的で甘美な喜びを覚えたのは、この言葉を読んだ時でした。

「どうか、世々の王、すなわち、朽ちることなく、目に見えない唯一の神に、誉れと栄光が世々限りなくありますように。アーメン。」(テモテへの手紙 第一1章17節)

"As I read the words, there came into my soul, and was as it were diffused through it, a sense of the glory of the Divine Being; a new sense, quite different from any thing I ever experienced before. Never any words of scripture seemed to me as these words did. I thought with myself, how excellent a Being that was, and how happy I should be, if I might enjoy that God, and be rapt up to him in heaven, and be as it were swallowed up in him forever! I kept saying, and as it were singing over these words of scripture to myself; and went to pray to God that I might enjoy him, and prayed in a manner quite different from what I used to do; with a new sort of affection."

「この御言葉を読んでいる時、私の魂に神聖な存在の栄光の感覚が入ってきて、まるでその魂が 広がっていくようでした。聖書の他のどんな御言葉も、この御言葉ほど私を捕らえることはあり ませんでした。この神を受け取り、天においてその神のもとへ昇り、永遠にそのうちに飲み込ま れるなら、どんなに幸せだろう!と思いました。そして、神を楽しむことができるようにと、神 に祈りに行き、以前とはまったく違うやり方で祈りました。」

• Edwards would go on to become one of the most influential voices in the Great Awakening of the 1730s, one of the greatest revivals in America's history. He was captivated by Christ and his life, and the lives of many others through him would never be the same.

•

- エドワーズは、アメリカ史上最大のリバイバルのひとつである 1730 年代の大覚醒において、最も影響力のある一人となりました。彼はキリストに捕らわれ、彼の人生は、そして彼を通して多くの人々の人生は、大きく変えられました。
 - Jesus Christ is much more than a person, tradition or philosophy. He is the image of the invisible God, the fullness of God in the flesh, the one who is supreme over all. You and I have been given fullness in him. Our salvation is complete in him.
- イエス・キリストは人、伝統、哲学を大きく超えるお方です。イエス・キリストは、目に見えない神の像であり、肉なる神の完全体であり、すべてに優る方なのです。あなたも私も、イエス・キリストのうちに完全なものを与えられています。私たちの救いは、この方において完全なのです。
 - As we focus our hearts and minds on him, he will protect us from being taken captive by the lies of the enemy and we can live each day in his fullness, experiencing the abundant life he promised.
- 私たちが主に心を集中させれば、主は敵の嘘に捕らわれないように私たちを守って下さり、私たちは主が約束してくださった豊かな人生を経験し、主の満ち満ちた中で毎日を生きることができます。
 - Are you captivated by him today?

今日、あなたはキリストに捕らえられていますか。

- As we start a new week, may we all be captivated anew by our great Christ. May we put Jesus at the center of our hearts and affections and may nothing else take his rightful place.
- 新しい週を迎えるにあたり、私たちが皆、偉大なるキリストに改めて捕らえられますように。イエスを私たちの心と愛情の中心に置き、他の何ものにもその正当な地位を奪われませんように。